

327) さよなら青春の日

学生のころふたりで聴いた	^{あむろ} 安室の歌を一人で聴いた
ドライブのたびクルマの中で	すりきれるほど何度も聴いて
リフレインからにじみ出てくる	情景さえも思い浮かべた
僕たちふたり過ごした時間の	長さとお愛がそこにはあった
学生のころふたりで聴いた	ザ・ドの歌を一人で聴いた
このころふたり仕事仕事に	追いかけてなかなか逢えない
あつという間にひと月が過ぎ	愛はだんだん遠ざかってく
時間がたつほど僕たちふたり	離れ離れになってくみたい
学生のころふたりで聴いた	アスカの歌をひとりで聴いた
君と過ごした時間の長さに	正比例して想い出重ね
ふたりの愛は反比例して	惰性のような日々になってく
あのころの歌昔のままに	歌ってみても変わりはない
学生のころふたりで聴いた	ユーミンの歌ひとりで聴いた
サザンの歌もユーミンさえも	今では過去になってくみたい
青春時代の歌を集めて	青春時代をふりかえるとき
^{とき} 時間の流れの速さを知って	鏡の中の自分を見つめた
青春時代の歌を集めて	青春時代をふりかえるとき
年をとったとふと気がついて	青春時代に別れを告げた